©Ko Yamada & Breaker Project

現在形の歴史

なるへそ新聞販路拡大

思い出はニュースだ

西成なるへそ新聞社(大阪市西成区)は三月末同紙の創刊を発表した。西成区で芸術活動を展開するブレーカー・プロジェクトとの共同企画によって生まれたこの独創的な新聞は、地域に住む人々の記憶を頼りに「西成の今昔」を新聞紙上に街の風景として再現して行く。一つ一つの記事は紙面上にある家や区画の様に扱われ、街の変化同様新しい記事を入れる際には古い記事を切り取って取り壊し、少しずつ時間をかけて記事が差し変わって行くというユニークな形式だ。人が人に話を聴き、手作りで進していく「手書き」の新聞。個人的な思い出話を、それが何年前のものでも新聞記事として現在の事のように扱うことで新旧の家々やそこに住む人々の記憶が入れ子の様に混在するリアルな都市の姿をこの新聞は体現すると、同紙編集長山田亘氏は語る。同社は一般参加の記者を公募中。参加する記者達の取材の過程そのものが人から人への歴史の伝承ともなっていく。

なるへそ記者

「西成なるへそ新聞」は新規の記者を広く募集している。忘れる事の出来ない大きな戦争体験ですら徐々に個人のディティールを失って単なる「歴史の一ページ」となって行く現在、この街に住む人々の生きて来た記憶が気づかない内に消えていってしまう前に、出来るだけ多くの方々から「暮らしの体験談」を聞き出していただきたいと同社広報の村田仁氏は語る。時空間を貫く街の移り変わりの姿を一緒に作っていく「なるへそ記者」には報酬脱章とメモ等が支給される。年間を通しての参加から、数回や一回限りでの参加も可能だ。

発行：西成なるへそ新聞社
ブレーカープロジェクト実行委員会
発行人：山田亘
編集：ブレーカープロジェクト実行委員会
山田亘
図案：村田仁

おふろで実感

ロングピースダイエット成功

山王の飲食店経営足立眞美さん(26)が八十キロから三十三キロのダイエットに成功した。伊達こきでならした足立さんは若い頃は奥様との初デートではナイフとフォークでのお洒落な洋食屋にスリムな体によく似合うお洒落な茶紺のブレザーでキメていったという。その際、デートのために新調したブレザーの背中に糸どめがそのままになっていたのを見て奥様が「可愛らしい」と感じたのがなれそめとか。その後奥様の妊娠を機に酒や母の影響だったキセル煙草を一切やめたことから三十キロの激太り。これはヤバいと結局わかばやロングピースに再び手を出す事となった。徐々にやせて行ったので実感はなかったが、最近新世界の風呂屋に行った際、風呂の真ん中に座るのが好きだった足立さんはお湯の波で自分の体が動いているのに気づき「ああ、やせたなあ」と実感している。

プリンセスライン大流行

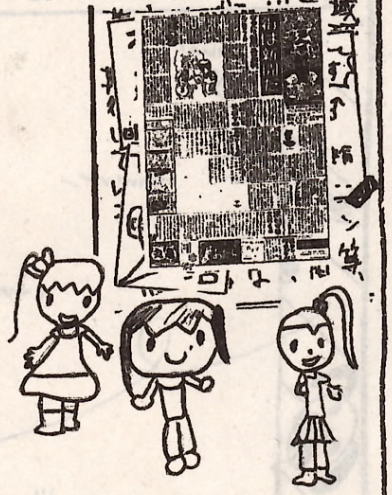
奥様方絶賛

中央区の店から親子二代で営む西成区の同じ洋品店に嫁いできたおしゃれガールは、店の手伝いや家事に忙しい毎日だ。既製品の洋服が出始め、フレアスカート、ツイッギーが着るミニワンピースなどが街の若者たちに大流行。商店街に働く奥様方は、日々家業が忙しく、デパートへ買い物に行けないので、街行く女性が着ている洋服を参考におしゃれを楽しんでいた。可愛らしいプリンセスラインのワンピースを着た奥様を見掛けると、同じもの を買い求める奥様方が殺到。店には一番売れ筋であるそのワンピースが、色柄違いの各サイズを揃えており、毎日四～五着は売れて行く。流行服だけ扱っている洋品店では無いため様々な接客で、てんてこまい。街には、同じ入タイルの女性が増えたが、皆満足そうに購入していく。

壁新聞設置

約六ヶ所

なるへそ新聞社(大阪市西成区)はこのほど「なるへそ壁新聞」を山王及び太子を中心に店舗前や商店街の壁スペース等約六、七カ所に設置する。今回の設置は新聞の存在を知っていただくためのもので、三月に発行されたもので、第一号をA1サイズのポスターに復刻したものが貼り出される。雨の季節に撥水加工の必要等も叫ばれているが、大きくなった新聞に目を留めて頂ければと期待がふくらんでいる。



ARTSめの湯

～ふろやさんわ～

画家志望だった二代目、林繁一さん(37)は、以前淀川近くの経営していた銭湯での手腕を買われて、さんわ温泉にヘッドハントされた。その後屋号を「ふろやさんわ」と変更し経営にあたる。花街の入り口近くのお店は女性客が多くにぎやかである。切り盛りは、先代、二代目繁一さんと奥様だ。特に奥様が働き者で、頭が上がらないと語る繁一さん。先代の「繁一やー画家でめしが食えると思ってんかあ?」の一言で、銭湯の世界に飛び込んだものの画家としての夢はあきらめていない。人物画や風景画などを得意とし、下足箱の上には多くの作品が所狭しと並び展覧会場のようだ。芸術をこよなく愛する繁一さんの銭湯は、ご近所の多くの方から評判のアーツ(ARTS)めの湯もあります。

自然恩恵 一生感謝

この地球は生命ある草木、動物、虫類、爬虫類と命を保っている生物は数多いがこの命を維持するには自然界の恩恵がなければ到底一日として生きて行くことは不可能と言えよう。人間は当然一番大きな恩恵を受けているとも思えるのだ。自然によって人類の歴史に変化をもたらしている現在の現象を見る地震、豪雨、噴火、台風等は一番頭を悩ます現象であるこの対策に大きく頭を使っているのが人類社会の在り方だ。昨今の人間の健康保持に酵素青汁を毎日広告として新聞等に載っているのを見ると総て自然界の恩恵のいかに偉大なるかを知らされるのだ。一生涯この様な恩恵を受けて一生終えることを願い祈る人々の気持は充分理解出来る今日と言えるでしょう。

木葉史太郎

風車
発行 黒田信子
定価 百円

沖ふろやさんわ
朝6時～夜12時　定休日毎週土曜日
天下茶屋北1-1-12

Kiaki 手芸館
たんす
お家のタンスに眠っている編み物を譲って下さい。
山王1-11-5(元・鈴木タンス店)

全酒類　食品販売
BEER WINE BRANDY SAKE
柳本商店
山王1丁目12番4号

大阪市現代芸術創造事業
ex・pots 2011-2013
Breaker Project
山王・飛田・太子・新世界
地域密着型アートプロジェクト
http://breakerproject.net